

ジャン＝クロード・ガロッタ作品『ママーム』 —振付の特性を中心にして

お茶の水女子大学大学院 壽田裕子

1. 研究目的

ジャン＝クロード・ガロッタ (Jean-Claude Gallotta 1950～) はフランス現代舞踊の旗手として1980年代フランスの舞踊界で最も注目を集めた振付家の一人である。ガロッタが振付けた舞踊作品では、無言劇のように日常動作に近い動き、グランジュッテのようなバレエにみられる動きというように様々な動きがみられるが、こうした動きが彼の舞踊の特徴ではないかと考えられる。そこで本研究では、作品『ママーム Mammame』(1985～87年製作)を取り上げ、彼の振付の特性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

フランス国内で収集した資料から新聞・舞踊専門誌に掲載された批評文106件を元にし、(1)ガロッタの舞踊を構成する要素を抽出し、彼の舞踊の特徴を導き出す。(2)作品『ママーム』に絞って、批評文にみられる舞踊の特徴から彼の振付の特性を考察する。

3. 研究結果及び考察

(1) 批評文にみられるガロッタの舞踊作品

ガロッタは1999年現在まで35作の舞踊作品を振付けており、『パ・ド・カトル Pas de quatre 1980』から『シャムール 或いは愛の術 La Chamoule ou l'Art d'aimer 1997』まで22作品を対象とした。批評文からは、ガロッタの舞踊作品は神話的素材、彼が作り出した想像上の人物、社会的な出来事といったあらゆることを題材にしながら、「人間の生」をテーマにしていると捉えられる。

(2) 批評文にみられるガロッタの舞踊の特徴

批評文からガロッタの舞踊を構成する要素を抽出した結果、「ダンサー」「振付」「動き」「身振り」「音楽」の5つの項目に分類でき、各々の特徴を考察した。「ダンサー」については、「各々のダンサーは特有の個性と存在感に恵まれる」¹⁾ことから、身体的な個性が生かされている。「振付」については、「振付の関係はまず舞台空間との関係で、身体の音楽性、照明、ダンサーによるパートの可能な組み替えである」²⁾と各々が関連して、空間において豊富な展開をみせる。「動き」については、「動きのシークエンスはおよその見当に反して構成される」³⁾と不規則に結ばれ、突然に転換される。「動き」の休止は、舞台の瞬間を印象づける。「身振り」については、様々な身振りが用いられ、ガロッタ特有の身振りとして「抑制できない痙攣のような身振り」⁴⁾「優しい細やかな身振り」⁵⁾が存在する。「音楽」については、「音楽は動きを伴ったり、動きと対立する

ことが可能である」⁶⁾ことから、音楽のリズムが動きに一致と不一致の関係を表す。

(3) 作品『ママーム』

1) 作品概要

作品は一つの主題を継続して製作され、『第1部 アルカディヌの砂漠 Le désert d'Arkadine 1985』、ビデオ作品『ママーム Mammame 1986』、『第2部 咳する子供たち Les enfants qui toussent 1986』、『ママーム・モントリオール Mammame Montréal 1987』を経て完結した。「ママーム」とは一つの種族名⁷⁾として想定されているが、「遊び」⁸⁾や「戦争孤児」⁹⁾とも紹介されている。作品はユニゾンやデュエットを中心として12場面からなるが、物語的な脈絡はもたない。第1部と2部ではダンサー10名で踊られたが、モントリオール版より8名で踊られるようになった。

作品全体の評価については、「ガロッタは彼の最も素晴らしい断片を結集させている」¹⁰⁾とこれまでの作品の集大成として位置づけられる。また完結した作品については、「大いに深め、無駄を削り、ほかし、修正したので、ガロッタは目的に近づいた」¹¹⁾と一つの主題を探究した成果が評価された。以上のことから、作品『ママーム』はガロッタの代表作品として捉えられる。

2) 批評文にみられる作品の特徴

作品『ママーム』の批評文13件から抽出した特徴を、身体、動き、空間、音、プロダクション(衣装・装置・照明)に分類した。その結果は3—(2)ガロッタの舞踊の特徴に相当していることから、『ママーム』はガロッタの舞踊の特徴を最もよく表している作品であると考察した。

4. 結論

ガロッタの振付の特性とは、ダンサーの身体的な個性を生かし、舞踊における身振りの表現領域を広げたことである。日常的な身振りを使用し、彼特有の身振りを生み出し、乱打などの大胆な表現へと発展させた。また空間を有効に演出したことである。多様なダンサーの身体や動きに音楽、照明の操作を関連づけ、豊富な組み合わせを展開させた。以上のことは、ガロッタが舞踊における自己の表現を形成し、フランスの現代舞踊の発展に貢献したといえる。

1) De Nussac, S, jeux et rituels, *Le Monde (R. A.)*, 6. mars, 1990.

2) Fasche, M, Groupe Emile Dubois, *Les Saisons de la Danse*, déc. 1980 : 19

3) Vernay, M-C, 《Yves P》 de Gallotta, *Les Saisons de la Danse*, jan. 1983 : 13

4) Sirvin, R, Jeux de l'esprit, *Le Figaro*, 12. jan. 1984.

5) Michel, M, L'essence des rapports amoureux, *Le Monde*, 6. août. 1982.

6) Fasche, M, Groupe Emile Dubois, *Les Saisons de la Danse*, déc. 1980 : 19

7) Gallotta, J. C, *Mémoire d'un dictaphone*, Plon : 57

8) L. L, "Mammame", *Pour la Danse*, juillet-août, 1985 : 53

9) NHK教育テレビで放映された『ママーム』より。

10) Vernay, M-C, Le nouveau corps amoureux, *Les Saisons de la Danse*, juin. 1985 : 27

11) Louppe, Laurence, Anamorphose L'Ame de Mammame, *Libération*, 15. sept. 1988.